

大賞「地域の未来プロモーター」

兵庫県 水土里ネット東播用水

「守る」「活かす」「つなぐ」活動を幅広く展開 「疎水や用水を100年後の未来に継承するため」

2つの土地改良区合併に際し 次世代継承に向けた基本計画を策定

東播用水は、兵庫県南部に位置する神戸市、明石市、加古川市、三木市および加古郡稲美町にまたがる広域水利ネットワークです。水を供給する農地は7124haに上り、県内の耕地面積の約1割を占める広さです。

この東播用水は、昭和45年度から平成4年度まで実施された東播用水農業水利事業によって完成しました。そして平成28年、この地域を管轄する東播用水土地改良区が、受益地が重複する兵庫県淡河川山田川土地改良区（以下、淡山土地改良区）を吸収合併し、現在の水土里ネット東播用水が組織されました。

この合併に向けた協議段階で策定されたのが、「淡山疎水・東播用水未来遺産運動基本計画」です。これは、淡山土地改良区が有する淡山疎水の125年に渡る歴史と東播用水の多様な機能を活かして地域活性化に取り組みとともに、100年後の後継者にこれらの用水や疎水を遺産として継承することを目的として定められました。淡山疎水は平成26年に「世界かんがい施設遺産」に登録された歴史的・文化的価値が高い施設

であり、近代的な広域水利システムである東播用水とともに次世代に健全な姿で引き継ぐことが、水土里ネット東播用水に課せられた使命であると考えたからです。

そして、この基本計画を踏まえた活動を水土里ネット東播用水における21世紀土地改良区創造運動と位置づけ、「守る」「活かす」「つなぐ」の3つのキーワードで様々な取り組みを展開していくこととしました。

地元の協力的体制や実行委員会形式で 取り組みを持続可能なものに

1つめの「守る」では、水利施設を保守・管理する活動を行っています。

管内には管理する用水路が23路線（約372km）あり、管理区域の面積も施設の数も膨大です。そこで23の路線ごとに水利委員会組織を設けて、各地域から約300名の水利委員を選出してもらうことに。この委員たちが現場を見回って、農業用水の需要や施設の老朽箇所などを水土里ネットに情報提供します。この協力的体制により、水土里ネットは地元の要望に適切に対応えられるようになりました。

2つめの「活かす」では、地元の施設や資源を活か



▲親子学習会（サイフォン橋の見学）

位置図





▲ワインぶどうの収穫体験の様子



▲模型を使ってサイフォンの仕組みを学ぶ



▲水源地里地・里山保全活動（篠山市）

して、地域を活性化する取り組みを行っています。
 その一つが、東播用水「水と緑の交流」実行委員会による活動です。これは水土里ネットが国、県や市、町などと立ち上げた委員会、水土里ネット単独では難しい活動も、関係機関から財源や人的な支援を受けることで持続可能な取り組みとなっています。
 これまでに、東播用水のルーツを知ってもらうための「東播用水源流ミニツアー」や、淡山疏水を始めた施設を巡る「神戸『水の恵み』ウォーク」などを実施し、地域住民や水源地域の人々と交流を図ってきました。東播用水の源地地である篠山市の森林環境保全や川代ダム周辺の環境整備作業に協力してくれる市民を広く募集する取り組みも行っていきます。
 平成28年度からは、水土里ネットが地元の農業生産組合と連携して主催する「神戸ワイン専用ぶどうの収穫体験」も年に1回実施。地域住民に農作業を楽しん

でもらいながら、生産者から東播用水の役割を説明し、農業と水利施設への理解を広める機会となっています。
疏水やダムの見学を通して子どもたちに知識をつなぐ

3つめの「つなぐ」では、次世代を担う子どもたちへ知識を継承するための活動を行っています。

平成12年度から継続しているのが、小学生を対象とした淡山疏水と東播用水の見学会です。地域内の小学校と連携し、現地ですべての見学をしながら、施設の役割や地域の成り立ちへの理解を深めてもらいます。

平成27年度からは、小学生と保護者が親子で参加できる「淡山疏水・東播用水親子学習会」も始めました。また、東播用水「水と緑の交流」実行委員会でも、子どもたちにダムの役割と仕組みを楽しく学んでもらう「吞吐ダム探検隊」と題したイベントも行っていきます。

今後もこれらの活動を通して、施設の維持保全に対する地域の理解と協力を醸成し、100年後の未来に豊かな農業・農村を受け継ぐことを目指します。

水土里ネット概要

水土里ネット名	水土里ネット東播用水
役員数	31名
職員数	常勤12名
組合員数	12,206名
受益面積	7,124ha

*平成30年4月現在